

活動状況報告（12月）

学生留学コース 5期生 幡谷 省悟

私は11月からウィスコンシン大学マディソン校での研究を本格的に開始しました。先月に引き続き、植物の窒素代謝の解明を目的として、モデル植物であるシロイヌナズナのアミノ基転移酵素を対象に研究を行っています。今月は、ウィスコンシン大学マディソン校 Maeda 研究室で Koper 博士の指導のもと、メタボロミクス解析に用いる植物のアミノ基転移酵素を合成、精製しました。タンパク質発現には、北海道大学では使用していたものとは異なる発現制御機構を持った大腸菌とプラスミド DNA を利用しました。また、FPLC でのタンパク質精製がうまくいかなかった際は、Koper 博士の助言を受けて精製条件を変えることで、問題を解決することができました。今月も Maeda 教授、Koper 博士とのミーティング、ウィスコンシン大学マディソン校の研究室が行っている植物学に関するセミナーに毎週参加し、英語力の向上と専門知識の深化に努めています。

研究とは別に、クリスマスには研究室の人たちと自国の料理を持ち寄る会がありました。研究室にはアメリカ、トルコ、スペイン等、多様な国出身の人々が集まっているため、今まで見たことがないような料理を食べたり、各国のクリスマス文化についての話を聞いたりすることができました。余談ですが、北海道は良いスキー場が多くある観光地として、あるいはサッポロビールを作っているビール産地として知られていることが多いということがわかりました。北海道の美味しい食べ物について知っている方が少ないというのは驚きでした。

Koper 博士とともに FPLC を利用したタンパク質精製を行っている様子を撮影した写真を添付いたします。

